

多角的アプローチがすすむ天文教育 3 PAOFITS WG の活動

Diversified approach in astronomical education 3; Activities of PAOFITS Working Group

古荘 玲子[1], 公開天文台ネットワーク FITS 画像教育利用ワーキンググループ

Reiko Furusho[1], PAOFITS Working Group

[1] 国立天文台計算センター

[1] ADAC, NAOJ

<http://paofits.dc.nao.ac.jp/>

PAOFITS WG は、FITS 画像を教育に活用する活動を行っている約 40 名の研究グループ（研究者と教員がほぼ半数ずつ）で、公開天文台ネットワーク (PAONET) のユーザ有志が中心となって発足した。FITS とは、天文の研究観測において広く用いられている画像のフォーマットであり、圧縮処理されている jpeg などの画像と異なり、等級や色など天体のさまざまな物理量を正確に求めることが可能である。

報道機関等に発表された天体画像を単に鑑賞するのではなく、このような研究に用いられている本格的な観測画像を主体的に解析処理する作業は、天文学に関心のある生徒たちにとって非常に新鮮で刺激的な体験となり、教育的にも非常に効果的と考えられる。

PAOFITS WG では、月 1 回程度、国立天文台（三鷹）で会合を開き、学校教育や社会教育等の現場でそのような実習を行うのにあたって最適なデータやその配布方法、処理方法などを検討し、国立天文台天文データセンターで公開されている、ハッブル宇宙望遠鏡やすばる望遠鏡、東京大学木曾観測所シュミット望遠鏡のアーカイブデータを活用した教材開発をすすめてきた。

発表では、本 WG のこれまでの活動および成果を報告する。